

5 見返り地蔵



4 岡田屋百手祭祭地



2 上梅田親水公園



1 厚南小学校原分教場



1 原尋常小学校跡



30 妻崎開作樋門跡



29 中川排水機場



27 恵比須神社



26 小島樋門



25 梅田川防潮水門と排水機場

ふるさと原 史跡マップ

7 五輪の墓



8 吉岡訓導の墓



8 尾崎先生の墓



9 五輪の墓



10 尾崎塾・西村塾跡



12 水神社



11 向山六十六部地蔵



13 一銭渡し場跡



14 蟹塚



15 妻崎神社お旅所



16 庚申塚



18 西宝寺



17 石炭局石炭会所跡



19 南部懇話会之碑



31 御撫育幹線水路最終点



(外側) 28 開作四挺唐樋跡



(内側)

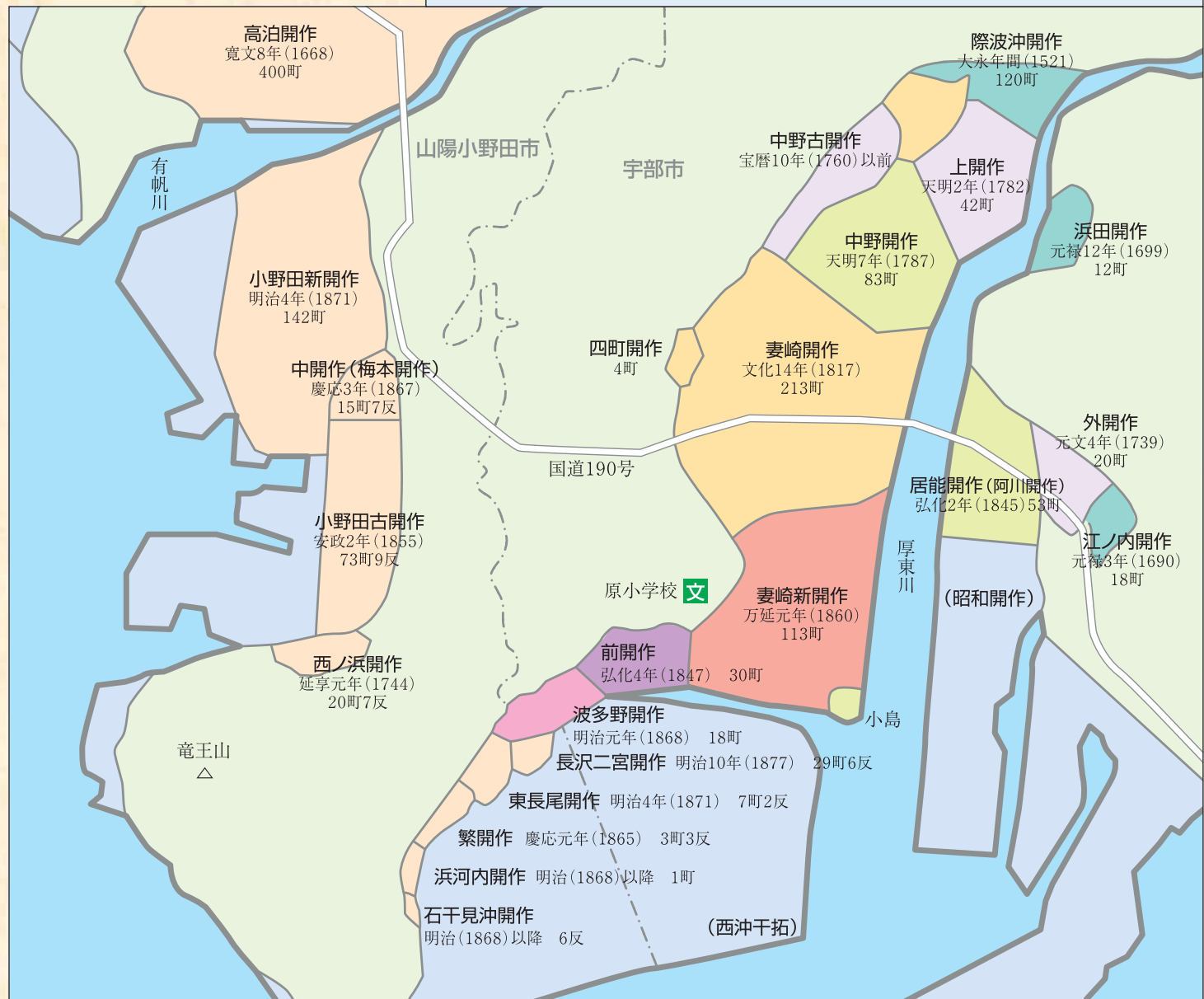


26 小島樋門改修記念碑



24 梅田川妻崎樋門跡

原近郷の新田開発の歴史



23 旧妻崎漁港、魚市場跡



22 前開作樋門



21 波多野開作樋門



20 馬渡川樋門



(昭和34年8月、樋門改修直後)



(小島樋門から中川、厚南平野を望む)

(平成18年9月、樋門改修・中川拡幅工事後)

ふるさと原 史跡マップ

マップを片手に
歩いてみよう!

再発見!
私たちのまち

原
HARA

新田開発

慶長5年(1600年)関ヶ原の戦いに敗れた毛利氏は、中国9ヶ国112万石から防長2国30万石に減封された。藩では財政が窮乏し、財政立て直しのため瀬戸内の開作事業、三白政策等に取り組み、藩内に撫育局を設け財政の改善に務めた。後に新田面積は1000町歩、石高に直すと約1万2千石に及び、この財源は明治維新の原動力となった。

散歩コース

① 北コース

原ふれあいセンター(原尋常小学校跡)→上梅田川親水公園→須恵小学校跡→岡田屋百手祭祭地→見返り地藏→吉岡訓導墓、尾崎先生墓→水神社→尾崎塾、西村塾跡→原ふれあいセンター(5km)

② 南コース

原ふれあいセンター(原尋常小学校跡)→西宝寺→石炭会所跡→旧妻崎漁港、魚市場跡→梅田川妻崎樋門跡→庚申塚→梅田川防潮水門、梅田川排水機場→御撫育幹線水路最終点→小島樋門→恵比須神社→開作四挺唐樋跡→中川排水機場→一銭渡し場跡→妻崎神社お旅所→蟹塚→妻崎開作樋門跡→原ふれあいセンター(6km)

① 原尋常小学校跡(第一原)

明治34年(1901年)に開校し、1~2年生が通学、3年生以上は小畑領の厚南小学校に通学していた。明治41年7月1日から厚南小学校原分教場となり、昭和18年4月、原国民学校として独立開校した。

② 上梅田親水公園(西園)

平成12年9月、建設省(国土交通省)近代下水道制度100年記念事業として、国の「甦る水100選」の親水公園として選ばれた。園内には当時の建設大臣扇千景氏の署名記念碑がある。

③ 須恵小学校跡(岡田屋)

明治5年(1872年)の学制発布で私塾、寺子屋が統合され、明治6年岡田屋公会堂の北側に開校した。明治17年に黒石小学校、開作小学校と合併して小畑領に移り、厚南小学校となった。

④ 岡田屋百手祭祭地(岡田屋)

応仁2年(1468年)頃、この地に疫病が流行して多くの死者が出たため、村人たちは相談の上、松江八幡・八大龍王・大歳の三神に疫病退散を祈願し、鬼に見立てた的に矢を射たところ疫病が治まり村に平和をもたらした。以来、感謝と厄除け、五穀豊穡を祈り毎年3月に的射の神事が奉納されている。(市指定無形民俗文化財)



射手11名による疫鬼退散の的射行事



疫鬼に見たてた的

⑤ 見返り地藏(岡田屋)

背の高さが105センチで、お顔が大変美しく、お参りした人たちが振り返って見るので、見返り地藏と呼ばれている。享保13年(1728年)頃の作と言われ、当初は本山岬にあったと言われている。

⑥ 剣型模造品出土地(岡田屋八幡迫)

鉄剣を模造した長さ3~6センチの石製品が昭和38年頃発見された。古墳時代(6世紀頃)の祭祀に用いられたもので、根元にあたる部分に小孔があけられ、ひもや小枝につり下げて使用したものと思われる。現在資料館に保管されている。



剣型模造品

⑦ 五輪の墓(叶松)

当初、中原地区にあったものを開発工事によってこの地に集められたもの。中原地区の五輪塔と同時代のものと推定される。

⑧ 吉岡訓導の墓(叶松)

吉岡藤子先生は明治40年土手町に生まれた。昭和9年9月大阪を襲った室戸台風の際、赴任先の小学校で教室にいた6名の小学生を救い、殉職された。自らを犠牲にして教え子を救った行動は教師のかみとして大いに賞賛され、戦前の小学校の教科書に載り、山口県立博物館には記念像が建てられた。

⑧ 尾崎先生の墓(叶松)

尾崎志津馬先生は、第一原の出身で、尾崎塾を創設。後に須恵小学校の先生として教育に尽力された。この墓碑は先生の教え子によって建てられたもの。

⑨ 五輪の墓(中原)

中世厚東氏の家老を務めた縄田家一族の墓の伝承がある。

⑩ 尾崎塾、西村塾跡(第一原)

原校区には、文政2年(1819年)から明治の初めにかけて7つの私塾があったが、その中で唯一当時の面影が偲ばれるのが西村塾の土塀である。

⑪ 向山六十六部地蔵(第一原)

元文4年(1739年)頃の作と言われる。六十六部とは、日本を六十六ヶ国に分けて、一国の霊場の一つずつ法華経を納めた宗教者で、法師の修行と世を救う意味を持っている。

⑫ 水神社(第一原)

年代は不明だが、原地区の農業水利のため、小野田高泊の堂島神社の祭神を迎えて祀ったとの伝承がある。

⑬ 一銭渡し場跡(新開作東)

明治中期頃までは厚東川には橋がなく、船賃は大人一人一銭だった。渡し場は地域住民によって管理、運営され、「小島渡し場道路改修費明細帖」(大正5年8月)にその記録がある。

⑭ 蟹塚(新開作東)

妻崎新開作が新田開発されたが、ある時期、蟹の異常発生により農作物が荒らされ、農民が蟹を大量殺生したため、蟹の供養のために建てられた。

⑮ 妻崎神社お旅所(新開作東)

妻崎神社祭礼のお旅所で、昭和3年に改修された。

⑯ 庚申塚(新開作西)

厚南南部はほとんどが開作地帯のため、土地の守り神また水の守り神として庚申塚や猿田彦大神塚が建立されている。特に梅田川沿いに多く、いずれも地域の人々たちによって祀り守られている。

⑰ 石炭局、石炭会所跡(妻崎)

幕末、萩藩は産業振興のために撫育方を設置し、特に石炭の増産に努めた。明治元年には石炭局が設置され、石炭の生産と販売を統制した。妻崎の庄屋の屋敷には石炭会所(支所)が置かれ、積み出しや販売を管理した。明治3年妻崎の石炭局を賊徒が襲い、山口藩の官金7千両を強奪し逃走した。やがて一味は捕らえられ東須恵長沢で斬首された。

⑱ 西宝寺(妻崎)

山号を和光山といい、浄土真宗西本願寺派。開基正誓は文明年中の人物で、俗名を縄田八左衛門といった。文明7年(1475年)当寺を建立し、真宗の布教に努めた

⑲ 南部懇話会之碑(第一原)

厚南村南部の政治的発言力を高めるとともに、地区の発展を目的に地区の有志により結成された団体。明治34年の原尋常小学校(厚南小学校分教場)の設立や、昭和18年4月の原国民学校の厚南小学校からの独立開校等に寄与した。この功績を称えるため、記念碑が原小学校玄関前に建てられている。

⑳ 馬渡川樋門(第一原)

現在の西沖干拓ができるまでは、直接海に面しており、海水の流入を防ぐために樋門が作られた。

㉑ 波多野開作樋門(第一原)

明治元年(1868年)波多野開作の新田開発によって作られた防潮樋門。

㉒ 前開作樋門(第一原)

弘化4年(1847年)、30町歩が新田開発された時の防潮樋門、平成17年度改修工事。

㉓ 旧妻崎漁港、魚市場跡(妻崎)

妻崎浦と呼ばれ漁船が出入りしたり、魚市場があった。昭和初期までは毎年12月末には農具、生活用品等の商品市が開かれ活気を呈していた。



猿田彦大神

㉔ 梅田川妻崎樋門跡(妻崎)

梅田川下流に新梅田川水門が作られるまで使用されていた樋門で、昭和54年の新水門完成と同時に廃止された。

㉕ 梅田川防潮水門と排水機場(第一原)

梅田川上流域の急激な開発によって、梅田川下流域が集中豪雨時など度々浸水事故が発生するため、昭和54年7月、強制排水機場と防潮水門が新設された。

㉖ 小島樋門(新開作)

安政6年(1859年)妻崎新開作130町歩が新田開発された時に作られた防潮樋門。昭和17年8月の台風で崩壊し、昭和34年、56年の大改修を経て現在に至る。

㉗ 恵比寿神社(新開作東、小島)

妻崎新開作の新田開発によって陸続きとなった竹の小島に祀られている。万延2年(1861年)に建立されたとあり、境内にある手水鉢には源氏、平氏、藤原氏の銘がある。

㉘ 開作四挺唐樋跡(新開作東)

安政6年(1859年)の妻崎新開作の開作工事の時作られた防潮樋門。四挺唐樋が2基あったが、昭和17年の台風で崩壊し、東側の唐樋の石積みが残った。

㉙ 中川排水機場(新開作東)

昭和50年以降厚南地域の住宅浸水事故を防止するために、昭和54年から中川改修工事が着工され、中川の拡幅工事に併行して、強制排水機場が新設された。

㉚ 妻崎開作樋門跡(新開作東)

妻崎新開作の開作工事にともない、それまで妻崎開作にあった樋門が廃止され、小規模の二挺樋として残され、その後改修された。

㉛ 御撫育幹線水路最終点(新開作西)

厚南平野の広い開作地のために江戸時代に作られた灌漑用水路。萩藩撫育局の事業として実施されたため、御撫育用水と呼ばれている。厚東の五田ヶ瀬井環から取水し、中野開作、妻崎開作などを潤してきた用水路の最終端。



「ケンキー」

■制作・発行 原郷土史研究会
平成19年(2007年)3月